平成30年度　唐津市立大良小学校　学校評価計画

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
心豊かで　自他ともに大切にし 共に学び合う　たくましい　子どもの育成 ～正しく，かしこく，たくましく～	・健康・安全教育の推進 ・学力の向上 ・豊かな心の育成 ・連携教育の推進 ・業務改善による効率化の推進

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3　目標・評価

①主体的な学びを通した学力の向上

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教職員の資質の向上	・児童の自己学習力・表現力の育成を目指した授業の構築 ・学級経営の充実	①職員が各自1回の研究授業を実施し，授業研究会での討議を充実させる。 ②児童理解研を学期に2回以上行い，全職員で児童の理解を図り，意見交換をして学級経営の充実につなげる。	・研究授業を実施する際は，講師招聘をして助言を受ける。また，事前の指導案検討を行い，授業研究会で研究を深める。 ・校内研修会を行い授業研究と学級経営を関連付けながら研修する，児童理解研を充実させて，一人一人の児童に対する理解を深める。
教育活動	●学力の向上	・個に徹した指導の充実 ・伝え合う活動を通して分かりやすく表現できる力の育成 ・自己学習力の育成	①授業や全校での取り組みの中で，言語活動の場をなるべく多く設定し，伝え合う活動を通して表現力を高める。 ②友達と交流する学習をとおして授業が分かり楽しいと思う児童を30人（88%）以上にする。 ③家庭学習の定着，自主学習を促進させ，学年に応じ，家庭学習の時間を達成する児童を30人（88%）以上にする。	・朝の時間に読み・書き・計算の徹底指導を行う。 ・「ふり返りタイム（国語・算数）」，長期休業中のサマースクール等で個に応じた指導を行う。 ・「言葉のキャッチボール」を毎日の授業の中に取り入れる。 ・自主学習に積極的に取り組むように支援していく。 ・家庭の協力を得るために，家庭学習の手引き・学校通信・学級通信・教科通信などで啓発を図る。
教育活動	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	・効果的なICT利活用授業の共有と推進	①国語・社会・算数・理科では，ICT機器を活用した授業実践を全単元で実施し，児童が分かる授業を展開する。 ②ICT機器を活用するための教職員の操作技能を高める。	・国語・算数・理科・社会では，デジタル教科書などICT機器を全単元で利活用する。 ・ICT推進リーダーを中心に，ICT利活用の研修会に，年1回以上参加し，得た情報を職員に広げる。 ・電子黒板やデジタル教科書，個人で得ているコンテンツの使用方法についての職員への研修を，長期休業中に行い，職員間での共有を図る。

②自他の生命の尊さを知り，よさを認め合い，思いやりの心の育成

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策
学校運営	●心の教育	・地域・外部人材を活用した体験活動の充実 ・道徳教育の充実 ・特別支援教育の理解と推進	①それぞれの学年に応じ，地域・外部人材を活用した体験活動を実施し，「郷土愛」「豊かな心」の推進を図る。 ②児童中心にグループで考え，自分の考えを伝える道徳の授業を，学期に2回以上実施する。 ③特別な支援，配慮が必要な児童について職員全体で共通理解を図る。	・生活科や総合的な学習の時間をはじめ，様々な教育活動において，地域人材や外部人材を活用する。 ・年1回「ふれあい道徳」の授業を実施し，学校便りや学級通信等によって，道徳教育や道徳授業の取り組みの様子を家庭に発信する。 ・児童理解協議会（年間4回）を開き，支援が必要な児童について共通理解を図る。 ・夏季休業中に外部講師を招いて，特別支援教育の研修を持ち理解を深める。
教育活動	●いじめの問題への対応	・教育相談の充実 （予防・早期発見・早期対応） ・人権尊重の教育の推進	①「いじめ」に係る授業の実践を全学級で年間1単元以上行う。 ②「いじめ」の予防，早期発見に努め「学校が楽しい」と思える児童が28人（82%）以上になることを目指す。 ③相手を思いやる気持ちを育て，児童の人権感覚を育てる。	・各学年の発達段階に合わせた「いじめ」に関する授業を全学年で行う。 ・「学校生活アンケート」を学期に1回取り組み，担任や職員全体が関わって教育相談を行う。 ・「なかよし集会」を年5回以上開き，人権や共生，協力などの話をする。

③健康・安全教育の推進

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・タイムマネジメントの推進による，業務の効率化 ・定時退勤日の徹底 ・業務の分散化による特定の個人への負担軽減 ・ICT活用の推進による，業務の効率化	・各分掌間の連携及び情報共有を図り，効率的な業務への取組を推進するとともに，教職員の時間外勤務について1か月当たり前年度比10%削減する。	・予定退勤時刻を明確にし，仕事の軽重を付けて業務に取り組む。 ・金曜日の定時退勤日を徹底するために，朝と退勤10分前に呼びかける。 ・行事や校務分掌に係る業務の平準化を図り，年間の計画を立てる。 ・学年ごとのフォルダを整理し，教科フォルダ，行事フォルダ等を作り，お互いのデータを共有化する。
教育活動	○安全・安心に過ごせる環境づくり	・危機意識の高揚と危機管理能力の育成 ・保護者・地域と連携した防災・安全教育	①計画的に避難訓練を年間に5回以上実施し，児童の危機意識を高めると同時に教員の危機管理能力も高める。 ②地域と連携した防災教育を年間1回実施し，地域との連携を深める。	・登下校の緊急対応を設定し，事故・事件・災害等のレベルに応じた避難訓練を実施する。 ・地域の消防団と連携して，消火活動の様子や災害などの話を聞く場を設定し，危機意識の高揚を図る防災教育を実施する。 ・児童向けの「安全マップ」を再点検・作成するとともに，事故・事件等の予防・防止・支援のための110番の家の継続依頼をする。 ・危機管理体制の周知徹底を図り，教職員の役割分担を明確にする。
教育活動	●健康・体つくり	・運動習慣の定着化 ・体育的行事の振り返り ・家庭と連携した主体的な生活習慣の定着 ・自己管理能力を高める健康教育・食育の推進	①運動場で遊ぶ児童を27人（79%）以上にする。 ②体育的行事を学習カードで取り組ませ，自分の目標に向かって取り組む児童を，27人（79%）以上にする。 ③給食で嫌いなものがあっても，残さず食べることができる児童を34人（100%）にする。	・休み時間や昼休みに外（雨天時は体育館）で遊ぶよう促す。 ・スポーツテストや持久走カードなど，学年に応じた目標を設定し，頑張っている児童を紹介する。 ・嫌いなものは最初は極端に量を減らしてでも，頑張って食べようという意欲をもたせて，量を徐々に増やしていく。
教育活動	○基本的な生活習慣づくり	・元気なあいさつ・返事の定着 ・立腰教育，整理整頓による落ち着いた生活の定着	①元気なあいさつをする児童を30人（88%）以上，元気な返事をする児童を30人（88%）以上にする。 ②「大すき良い子カード」で90点以上の児童を28人（82%）以上にする。	・毎月の月初めの1週間を「大すき良い子カード」の取り組み期間とし，学校と保護者が連携して基本的な生活習慣が身につくようにする。 ・朝の会での「立腰タイム」や，全校朝会での生活の話などで児童に繰り返し話をし，意識を高めていく。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目